

## タイムテーブル

AM1	9:00～10:30
AM2	10:45～12:15
PM1	13:45～15:15
PM2	15:30～17:00
PM3	17:15～18:45

ID	タイトル(セッションページへリンク)	代表コンピナー	共同コンピナー	口頭セッション	ポスターコアタイム	スコープ
M-IS22	<a href="#">海底のメタンを取り巻く地圏-水圏-生命圏の相互作用と進化</a>	宮嶋 佑典	井尻 暁、ジェンキズ ロバート、戸丸 仁	5/26(日) AM1-AM2	5/26(日) PM3	海底で生成したメタンは、海底表層へと輸送され、冷水水や泥火山、熱水などを伴って湧出する。湧出したメタンや流体はメタンハイドレートや炭酸塩・チムニーを形成し、化学合成生態系を発達させる。メタンおよびメタンを取り巻く諸現象は、海洋や地球環境の変遷、物質循環と生命の進化と密接に関連しており、その理解は地圏-水圏-生命圏の相互作用を解明することにつながる。また、これらの知識の深化は、資源利用、災害予防、生物多様性・生態系保全など、人間社会の持続的な発展にも寄与する。本セッションでは、海・陸、現在・過去のフィールドを問わず、冷水水、泥火山、熱水噴出孔で湧出するメタン・流体の地質学的・生物学的・地球化学的起源(生成過程)やそれらの地球物理学的な背景、資源科学、化学合成生態系の地球生物学に関連する最新の研究成果の発表に基づき、分野の垣根を超えた積極的な交流と研究コミュニティの発展を目指す。本セッションでの発表は英語または日本語で行うが、図表は英語での作成を推奨する。
S-SS05	<a href="#">地震発生の物理・断層のレオロジー</a>	奥田 花也	浦田 優美、奥脇 亮、澤井 みち代	5/26(日) PM2, 5/27(月) AM1-PM2	5/27(月) PM3	地震の発生および断層内での物理学的化学的素過程に関する諸問題に対して、地震学・測地学・地質学・鉱物学等の固体地球科学諸分野における、理論・実験・観測・観察・シミュレーションなどの多様な観点から、学際的に議論を深めることを目標とする。地震前、地震時及び地震後の過程、断層帯と断層帯のレオロジー、断層運動などの震源とその周辺における現象、摩擦構成則とそれに基づく地震プロセスのモデル化、地震発生場の応力状態、断層掘削、震源過程など、関連する話題を広く募集する。
S-CG52	<a href="#">沈み込み帯へのインプット: 海洋プレートの進化と不均質</a>	平野 直人	藤江剛、鹿兒島 渉悟、赤松 祐哉	5/27(月) PM1, PM2	5/27(月) PM3	海洋プレートが海溝で沈み込み、巨大地震が発生し島弧火山が発達するという変動現象の研究は、古くから盛んにわれてきた。しかし、これら変動帯の流体組成や岩石物性を規制する要因は、少なくとも半分は沈み込み海洋プレート側の事情であるにもかかわらず、沈み込み海洋プレートそのものの実態が見えてきたのは2000年代以降のごく最近である。これまでその生産場である中央海嶺近傍や、過去の海洋底を構成していたオフィオライトから類推した「仮想的な」海洋プレートの特徴をあてはめていたに過ぎなかった。このような中、近年沈み込みプレートの重点的な海底構造探査や、プレート境界断層の掘削、海底地震津波観測網の構築、およびプルススポット火山や海溝海側斜面の詳細観測も進み、沈み込み海洋プレートの実態は、これまで認識とは異なっていることが明らかになりつつある。本セッションでは、沈み込み帯インプットの実態とその不均質性と、それらが沈み込み帯に与える影響まで、地球物理、地球化学、地質、岩石、掘削科学等、幅広い分野からの研究発表を歓迎する。本セッションはハードロック掘削科学フォーカスグループの後援を受けている。
S-CG42	<a href="#">ハードロック掘削科学: 陸上・深海底掘削、そしてオフィオライト</a>	星出 隆志	針金由美子、岡崎 啓史	5/28(火) AM1, AM2	5/28(火) PM3	国際深海科学掘削計画 (International Ocean Discovery Program; IODP) では、2024年以降の指針として"2050 Science Framework"が策定されました。国際陸上科学掘削計画 (International Continental Scientific Drilling Program; ICDP) においても、新しい科学計画"ICDP Science Plan 2020-2030"が既に開始されています。このように、ハードロック掘削科学は次のフェーズに入ろうとしており、これまでにない新しい視点からの掘削提案や、既存の掘削プロジェクトに基づく科学成果の創出が期待されています。本セッションは、陸上掘削、海洋掘削、オフィオライト調査や実験研究などの「ハードロック」に関する成果発表を期待しています。本セッションは、ハードロック掘削科学フォーカスグループが主催するセッションです。
M-GI31	<a href="#">地球掘削科学</a>	岡崎 啓史	井尻 暁、浦本 豪一郎、北村 真奈美	5/28(火) PM1	5/28(火) PM3	<b>地球掘削科学セッションは深海や陸上での掘削を通して得られた試料・データを利用した科学研究について、成果発表や情報交換するセッションです。これまでに国際深海掘削計画 (IODP) や国際陸上掘削計画 (ICDP) で実施された掘削で得られた研究成果の報告と、今後の長期的な科学計画に関する最新情報の紹介を行います。また、新しいプロポーザルのアイデア紹介や掘削科学に関連する新手法・技術開発研究等の報告も歓迎します。</b>
H-CG23	<a href="#">堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動</a>	菊地 一輝	池田 昌之、川村 喜一郎、清家 弘治	5/28(火) PM1-PM2	5/28(火) PM3	地層の形成や地形発達のプロセスに注目し、地球表層環境のダイナミクスや変遷を議論するため、分野の垣根を超えた研究発表を募る。手法やあつかう時間スケールを問わず、野外観測・実験、理論に基づいた地形・堆積物・堆積岩組成・流体(河川・波浪・土石流・乱泥流・火砕流など)の研究を対象とする。海底ジオバザード(海底地すべり・パイプラインや光ケーブルへの洗掘や液状化等)や資源探査の観点からの議論も歓迎する。
B-BG01	<a href="#">地球惑星科学 生命圏フロンティア</a>	奥村 知世	伊左治 雄太、濱村 奈津子、諸野 祐樹	5/28(火) PM1-PM2	5/28(火) PM3	地球におけるフロンティアである深海・地下環境の研究は、深海・地下圏での水、炭素、窒素などの軽元素や金属元素といった物質のフラックス、各種エネルギーの流入やその密度、生命の生息領域としての性質、そこに生息する生命の存在量や特性、限界など、広大な空間に存在する複雑な化学的、物理的、生物学的相互作用の上に成り立つ独自の「生命圏」の描像を提示してきました。そしてそれらの理解は、深海・地下生命圏が、気候変動、エネルギー、資源、自然災害など各種問題と密接に関わり、重要な役割を果たすことを明らかにしました。さらに、それらを地質学的時間スケールで捉えた時、光エネルギーと隔絶した生命進化、生命-地球共進化、そこに至るまでの化学進化、生命機能進化、また地球外でのハビタビリティに至るまで、幅広い分野での根拠的な知の拡充に貢献してきました。本セッションでは様々な因子が時空間において複雑に絡み合う地球・惑星フロンティア生命圏に関し、セッションの垣根を超えて地球惑星生命科学を開拓する技術・実験・理論・応用的研究を幅広く募集し、多角的かつ体系的に議論し、今後のこの分野の課題、発展性を示す場となることを目指します。
A-CC27	<a href="#">アイスコアと古環境モデリング</a>	齋藤 冬樹	植村 立、竹内 望、川村 賢二	5/29(水) AM1, AM2	5/29(水) PM3	極地や山岳域で採取したアイスコアの解析は、数年から数十万年の時間スケールにおける地球環境変動の復元や、そのメカニズムに関する研究に貢献してきた。また、古環境データ解釈のために様々なモデルとの連携が不可欠である。本セッションでは、アイスコア解析の成果や古環境モデリングを中心に発表・議論する。雪氷や堆積物への環境情報の記録プロセスや変質過程、新たな環境指標、古環境モデリングの技術的側面など、方法論に関する発表も歓迎する。地域や時間スケールが一致する海底コアや陸上堆積物コア、鍾乳石、樹木年輪等を用いた研究とのつながりも重視し、古環境変動を多角的に議論する場としたい。
M-IS03	<a href="#">Evolution and variability of the Asian Monsoon and Indo-Pacific climate during the Cenozoic Era</a>	佐川 拓也	松崎 賢史、Sze Ling Ho、Stephen J Gallagher	5/29(水) AM1, AM2	5/29(水) PM3	The Asian Monsoon (AM) is an inter-hemispheric atmospheric system driven by the thermal contrast between ocean and land. It interacts with the global climate system via several processes. On tectonic time-scales, the uplift of Himalaya and Tibetan Plateau has been considered an important player in the establishment and intensification of the Asian monsoon, but its importance is still debatable. On the other hand, comparison of regional and global paleoclimate records suggests that AM evolution during the Cenozoic is significantly affected by global climate changes most likely through pCO2. In addition, Indo-Pacific oceanic climate condition is also essential for the land-ocean thermal contrast as well as water vapor circulation because these areas have the largest heat content in the global ocean and supply a large amount of heat and moisture to the atmosphere, which cause warm and cool phases of a recurring climate pattern across the tropical Pacific, the El Nino-Southern Oscillation (ENSO). In this session, we seek to disentangle and determine the relative importance of the above-mentioned processes on different time-scales. This will improve our understanding of the evolution of AM, ENSO and Indo-Pacific in terms of the mean climate state and variability from millennial to tectonic time-scale, as well as their controlling factors, and their interaction with the global climate system. Presentations based on various archives such as piston cores, DSDP/ODP/IODP cores as well as land sections relying on a wide panel of paleo-environmental proxy are welcome (e.g., geochemistry, geophysics, sedimentology, micropaleontology as well as modeling studies). Studies on calibration and evaluation of proxy and comparison of multiproxy approach are also welcome. We also welcome presentations from older time periods such as the Mesozoic and Paleozoic that shed light on the evolution of the monsoon system during the Phanerozoic.
S-CG48	<a href="#">海洋底地球科学</a>	沖野 郷子	田所 敬一、土岐 知弘、山本 揚二郎、秋澤 紀克	5/29(水) AM1, AM2, PM1, PM2	5/29(水) PM3	海洋底は現在の地球上において最も活動的な場所です。海洋底で起こるさまざまな地学現象はプレートテクトニクスのみならず地球深部の構造やダイナミクス、さらに地球表層環境と密接に関わりがあります。また、海洋底には過去の環境変動の歴史や物質循環の記録が残されています。本セッションでは、「海洋底」というキーワードを含む研究成果の発表を海嶺系・沈み込み帯・ホットスポット・巨大火成岩岩石区など地域によらず、地球物理学的・地球化学的・地質学的など研究分野によらず、観測的・理論的・技術開発的など研究手法によらず、幅広く歓迎します。多様な研究者が集い議論できる場として、新しい海洋底像を描き出すことを目標とします。
M-IS12	<a href="#">古気候・古海洋変動</a>	山崎 敦子	岡崎 裕典、長谷川 精、小長谷 貴志	5/29(水) PM1-PM2 5/30(木) AM1-AM2	5/29(水) PM3	本セッションは、陸と海の両方から復元される古環境情報とモデル研究の統合を目指し、数年からテクトニクスが関わる時間スケールまでの古環境変動やイベントに関わる研究を取り扱う。陸域・海域、時代、手法を問わず幅広い内容の発表を歓迎し、中・長期の気候・環境変動に関連する幅広い研究分野との一層の連携促進を目指している。JpGU2024では通常の講演に加えて、古気候・古海洋変動の中の一トピックに焦点を当てて、考古学・人類学の分野において古気候・古海洋学の手法やそこから得られる情報をどのように研究に活用しているかを語るセッション内企画を行い、今後の古気候・古海洋研究の方向性を参加者が考えるきっかけとなることを目指す。研究分野の垣根を超え、連合大会ならではの活発な交流の場となることを期待する。
H-QR05	<a href="#">第四紀: ヒトと環境系の時系列ダイナミクス</a>	白井 正明	横山 裕典、吾妻 崇、里口 保文	5/30(木) AM1, AM2, PM1	5/30(木) PM3	人類誕生以来、ヒトは環境に適応しながら進化すると共に、固有の文化により特異な発展を成し遂げてきた。本セッションでは、過去の人類に影響を与えてきた気候、地形、地層、海洋、生物相の変化の解明とそれらの相互関係を総合的に論じることを通じて、今日われわれが直面するヒト-環境系の問題を様々な観点から提起する。第四紀におけるヒト-環境系の変化とその時間軸決定に関わる幅広い研究分野からの参加を歓迎する。
S-MP24	<a href="#">変形岩・変成岩とテクトニクス</a>	中村 佳博	永治 方敬、針金 由美子、山岡 健	5/30(木) AM1, AM2, PM1	5/30(木) PM3	プレート境界における地殻、マントルのダイナミクスを理解するために幅広い分野から研究成果を募集します。岩石学的、構造地質学的貢献のみならず、流体を含んだ地殻・マントルのレオロジー、熱や物質輸送の力学など、様々な手法、対象の成果を総合的に議論します。
S-CG43	<a href="#">New perspectives of subduction zone earthquake dynamics through scientific drilling</a>	木下 正高	奥田 花也、Hiroko Kitajima	5/30(木) PM2	5/30(木) PM3	Knowledge on subduction zone earthquake phenomena has considerably increased in the last decades. Still, there are limits to comprehensively elucidate the earthquake mechanism in which phenomena differ by 10 orders of magnitude in space and time. One of the primary goals of IODP NanTroSEIZE was to reach and sample the seismogenic portion of plate boundary fault at ~5 km depth below sea floor offshore Kii Peninsula. Unfortunately, that objective has not been achieved due to difficulties in the drilling operations. Nonetheless, the NanTroSEIZE project has significantly advanced our understanding of the mechanics of earthquakes and faulting at the Nankai Trough and elsewhere. This session aims highlighting and synthesizing the scientific outcomes and technological advances from recent NanTroSEIZE expeditions that have advanced our understanding of the mechanics of earthquakes and slip behaviors along thrust plate boundary faults. We welcome, but not limited to, presentations from fields of ocean and land networks observation, seismogenic zone drilling, rock mechanical experiments, fracture process theory, etc.
M-IS20	<a href="#">津波堆積物</a>	山田 昌樹	石澤 亮史、谷川 晃一郎、中西 諒	5/31(金) AM1-AM2	5/31(金) PM3	2011年東北地方太平洋沖地震・津波は津波堆積物研究の一つの契機となり、国内外の様々な分野の研究者がこれまでに以上に積極的に調査・解析に取り組んでいる。日々新たな知見が蓄積されているものの、津波堆積物に基づいて地震の規模や津波の波源を推定する手法や津波リスク評価への活用方法は今なお確立されたとは言えない。本セッションは、陸上および海洋底の津波堆積物の特徴、古津波堆積物の識別、形成年代の推定精度の向上、識別基準の確立、津波履歴・規模・波源の推定など津波リスク評価に資する研究に加え、津波堆積物を識別する上で重要となる洪水や高潮など、津波以外のイベント堆積物に関する発表も広く募集する。